



主催：NPO法人築地居留地研究会 後援：東京都中央区

2023年9月度定例研究報告会

テーマ：『築地居留地と築地ホテル館』

百を超える錦絵に描かれた江戸名所「築地ホテル館」（幕府・政府の公文書では「外国人旅館」、外国人は「江戸ホテル」と称した）は、宿泊施設だけでなく鉄砲州役所、乗合馬車駅などもあった。江戸開市により来日外国人の増加に備えた、いわばインバウンドプロジェクトといえる。基本設計は新橋駅の設計で知られる米人ブリジェンス、施工は横浜での洋風建築の実績のある二代清水喜助（現在の清水建設）。慶応3年8月着工、同年10月には大政奉還があり政情は不安定、施主は幕府から新政府に継がれるなか、同4年8月に完成した。幕府勘定奉行小栗上野介は、土地は幕府が提供するも、工事のみならず資金調達、施設経営をも民間にさせるとし、いわばPFI事業の発注であった。こうした経緯や清水喜助の奮闘、近代初期の洋風建築の詳細について、元清水建設技術研究所上席研究員で建築史家の松波秀子氏にお話をさせていただきます。



築地ホテル館



築地ホテル館（1870年歌川芳虎画）



松波 秀子 先生 愛知県出身。1949年生まれ。名古屋大学工学部建築学科卒業。同大学院修士課程修了。博物館明治村建築学芸員を経て、清水建設技術研究所に転じ、歴史的建造物の史的調査及び保存復元プロジェクトに従事する傍ら、ガーディナーをはじめとする日本聖公会の建築史的研究等、多くの論文を発表。「田辺淳吉と明治から大正の清水組設計組織の研究」にて、東京大学より博士号を取得。日本建築学会々員。NPO法人歴史建築保存再生研究所 理事

日時：2023年9月9日（土）14：00～16：00

場所：カトリック築地教会 2階

講演聴講：無料 一般公開 予約不要 どなたでも聴講できます。

お問い合わせ先：03-3551-7595

カトリック築地教会へのアクセス

中央区明石町5-26



地下鉄にてご来場の場合

- ・ 新富町（地下鉄有楽町線）駅6番出口から徒歩5分
- ・ 築地（地下鉄日比谷線）駅3番出口から徒歩6分